

オープンアーキテクチャで県庁大津橋分室！！

11/3文化の日に、「愛知トリエンナーレ2013」のイベントとして、オープンアーキテクチャが開催されました。その中で、普段、入ることのできない県庁大津橋分室のガイドツアーが開催されたので、参加してきました。

この建物は、昭和8年（昭和7年という説も）に愛知県信用組合連合会が建設されたとされます。設計は愛知県営繕課です。この年に、名古屋市役所本庁舎が建築され、その5年後、愛知県本庁舎が建築された…そんな時期です。官庁営繕が頑張っていた頃の気概が感じられます。現在、県史編纂室として活用されており、貴重な資料もあり、なかなか開放はできないようです。



1階外壁は石張り、2階以上は茶色のスクラッチタイルで覆われています。現在は、北側の階段塔の入り口が主たる出入口になっていますが、かつては正面に出入口がありました。この旧玄関の庇にたいまつ飾り（何故、たいまつ？）がついていること、講堂のある3階のバルコニーの壁には、テラコッタ製のパネルがはめられていることが特徴です。

外壁の目地が、東京駅での目地と同じ丸目地になっており、丁寧な施工、当時の気持ちが伝わってきます。



階段塔の垂直を強調したデザインにより建物全体を非対称にしていること、曲線を強調した階段と3つの丸い窓、屋上のパラペットにあるテラコッタの装飾版など、各所に、表現主義的な意匠が見られます。参加された皆さんも、この階段の意匠に、感嘆しきりです。

大津橋の南西に位置し、並立する「県庁大津橋分室」と「伊勢久」は、当時のレトロモダンな雰囲気醸し出し、2つの建築にすぎないのに、歴史的界隈という味わいを出しているように思います。

(T. Y. (*_~*))